



ゆうこのおひさま通信

～だれもが笑顔でくらせるために～

ゆうしんかい
裕心会 会報



群馬県議会議員

大林 裕子



お世話になります。令和2年度は新型コロナウイルス感染症に始まり、新型コロナウイルスに終わりました。まだ感染予防は続けなければなりませんが、予防しながら新しい生活様式のもとで笑顔がふえることを願い、私も活動を続けていきます。

先日の一般質問では、その様子をテレビやインターネットで見て応援していただきまして、ありがとうございました。いただいたご意見等を糧に、またがんばっていきます。今回の通信はその一般質問の内容について主な事柄をお伝えします。

大林裕子による 県議会での一般質問

1 男女共同参画について

- (1) 第5次群馬県男女共同参画基本計画における取組について
(生活こども部長)
- (2) 男性県職員の育児参画について
(総務部長)

2 子育て支援について

- (1) 児童虐待の未然防止について(知事)
- (2) ぐんま妊娠SOSや予期しない妊娠を防ぐための啓発活動について
(生活こども部長)
- (3) チャイルドデスレビュー(CDR)について
(生活こども部長)
- (4) 子育て世代包括支援センターについて
(生活こども部長)

3 ひきこもり支援について

- (1) 取組状況について(健康福祉部長)
- (2) ネットワーク構築について
(健康福祉部長)

4 学校給食について

- (1) STEAM教育について
(教育長)
- (2) 学校給食について
①残食について
②アレルギーへの対応について
(教育長)



男女共同参画について

Q1 「男女共同参画に関する県民意識調査(令和元年度)」の結果から、固定的な性別役割分担意識がまだ残っていることが女性の政策・方針決定の場への参画が進まない理由の一つと考えられる。今年度策定している第5次計画において、どのように位置づけ、取り組んでいくか。

A1 あらゆる分野での女性の参画拡大、意識改革を基本方針にして、固定的な性別役割分担意識の解消のための意識啓発や情報発信、女性の人材育成に取り組む。

要望

審議会等の男女の参画における

- ・具体的な割合、数を設定していくことを進めることが必要と思う。
- ・役職についてからの女性へのエンパワーメントも大切で必要なこと。

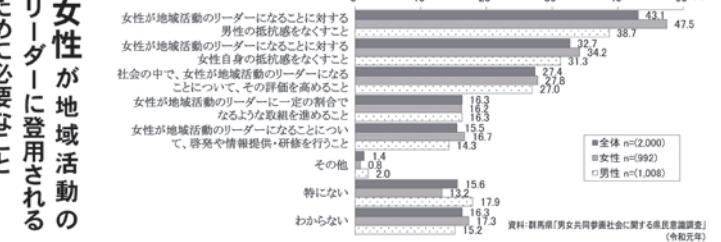


※ エンパワーメント … 持っている能力を引き出すこと

Q3 女性の活躍を進めるには男性の働き方の見直しや育児休業取得等、男性への働きかけも重要であると思う。一般企業に先んじて、県職員が取り組んでいくことを望むがどうか。



A3 女性活躍を進めるためには、男性側の意識を高める必要がある。育児の経験によって多様な価値観も取り入れられる。県男性職員には、育児に伴う休暇・休業を1カ月以上必ず取得することを目標におき、子育て計画書を作成し、支援するしくみを取り入れる。育児は男女が共に担うべきもの。民間事業者をリードする役割をふまえ、積極的に取り組んでいく。



Q2

より積極的なアクションが必要では?

A2

県の審議会等の女性参画率を令和7年度までに45%に設定したい。地域における女性リーダーを育成するために若年層への人材育成に取り組む。

Q3

女性活躍を進めるためには、男性側の意識を高める必要がある。育児の経験によって多様な価値観も取り入れられる。県男性職員には、育児に伴う休暇・休業を1カ月以上必ず取得することを目標におき、子育て計画書を作成し、支援するしくみを取り入れる。育児は男女が共に担うべきもの。民間事業者をリードする役割をふまえ、積極的に取り組んでいく。



ぐんま妊娠SOSの相談状況と今後の取組、また、予期しない妊娠に至らないための啓発活動について伺いたい。



ぐんま妊娠SOS
TEL 0276-37-5660

相談は無料・秘密は守ります



A 今年度上半期(1~6月)での相談件数は、昨年度215件より多い246件である。来年度は若年世代が相談しやすいようSNSを活用した相談窓口も開設し、コーディネーターを配置して、総合的に支援していく。予期しない妊娠による子どもへの虐待をなくすため、思春期の子どもたちを対象に健康と性に関する正しい知識を伝える思春期保健対策事業を実施していく。

要望

ぐんま妊娠SOSでの支援がさらに進んだことに感謝する。啓発活動では、学校で行うことで全ての生徒への啓発が可能と思うのでお願いしたい。



Q1 現在の取組状況と今後の予定について伺いたい。



A1 ひきこもりは、大変深刻な問題である。ひきこもり支援センターで、専門コーディネーターによる相談、家族教室・支援者向け研修などを行っている。支援対策にはより身近な市町村が重要な役割を担うため、支援への助言などに力を入れている。来年度は、県内のひきこもりの方の実態・ニーズ把握の調査を行う。

要望

家から外出できるようになった方の居場所となるフリースペースなどの運営への支援もお願いしたい。



Q2 今年度から始めたSTEAM教育とはどのようなものか。また、現在どのような取組を行い、今後どのように推進していくのか。



A2 各教科の学習を実社会で問題解決に生かす教科横断的な教育。現在、2つのプロジェクトと1つの学習プログラムを実施。これからの中等教育に大きな意味をもつと考えている。来年度はデジタルアートを切り口に地域や社会の課題を探求する計画。これらを推進しながら、子どもたちが、始動人として資質を高められるよう支援。



※1 STEAM教育とは…サイエンス・科学(Science)、テクノロジー・技術(Technology)、エンジニアリング・工学(Engineering)、アート(Art)、数学(Mathematics)等の学習を対象とした理数教育に創造性教育を加えた考え方であり、実社会での問題解決に生かしていくための教科横断的な教育

※2 始動人…自分の頭で未来を考える力、動き出す力、生き抜く力を身につけた人材(群馬県新総合計画でかけている)



Q2 地域のNPOやボランティアなどの活動を支援するために、関係団体のネットワークを形成する必要があると考えるがどうか。



A2 支援団体の特徴を生かし、効果的な支援を行うためにも顔の見える関係を築くことが必要。団体の意見を聞きながら、市町村と連携し、地域ごとのネットワーク構築に向けた検討を進めたい。

環境農林常任委員会では次のような質問をさせていただきました

Q 太陽光パネルの廃棄について現状と課題は?

A 2040年頃は、大量の廃棄パネルが予想され、パネルの適正処理の構築が必要。環境省のガイドラインにのっとって処理していくよう取り組んでいく。

Q G-アナライズ & PRチームの分析結果の生産者への周知について伺いたい。

A イチゴ農家には「やよいひめブック」を作成中で、この中に分析結果等を掲載。これを生産者に配布したり、生産者の集まる機会に紹介したりして周知を図りたい。

Q 多面的機能支払交付金は農地の多面的な機能の発揮や、農家の農地の維持・管理のための制度である。より活用するために、どう推進していくか。

A 市町村、土地改良区と連携して、事務負担の軽減や周知を図りたい。



皆様の声を県政に! 気軽に声をかけて下さい。

〒370-3607

発行者: 大林裕子 北群馬郡吉岡町小倉甲91 TEL.0279-54-3745 FAX.0279-54-0593

公式HP

Facebook

